

建設汚泥のリサイクルを促進する産学連携の協会として発足し、7月で創立20年を迎えた。脱炭素化など社会的ニーズへの対応がより重要となり、リサイクル関連技術の付加価値を高める必要性を説く。施工者だけでなく、事業者側の人材育成も持続可能な社会には欠かせないとし、デジタルコンテンツを活用しながら環境教育に力を注ぐ。

◇ 泥土リサイクルとの関わりは。

「環境地盤工学を専門とし、指針や基準づくりに関わる国の検討委員会などを通して泥土リサイクルには要素所で関わってきた。1999年度にまとめた建設汚泥リサイクル指針、2006年度に策定された建設汚泥処理利用基準では、それぞれの検討委で委員長を務めた。同年度には個別指定による過去最大の建設汚泥リサイクル事業（大和川線シールド）の検討委でも、委員長の立場で事業計画をま

泥土リサイクル協会

かもん まさし
嘉門 雅史氏

静脈から動脈の好循環へ

とめて事業者側に提案し、リサイクルを促した」

「協会設立に尽力された初代理事長の大根義男先生（愛知工業大学名誉教授）、2代目理事長の木村孟先生（元東京工業大学長）を中心に、低迷していた建設汚泥リサイク

ルを産学連携で促進してきた。今回、3代目理事長の後継指名を受け、次世代への橋渡し役として微力ながら頑張りたい。建設汚泥という廃棄物を再生処理しリサイクル品とすることで、静脈の流れを動脈に変えて全国各地の取り組みを活性化させる。そうし

た好循環を生み出したい」

「泥土リサイクルの現状をどう見る。」
「自治体の環境部局など行政側からすると、環境安全性などの面から規制は緩和よりも強化に動く傾向にある。役所では担当が数年単位で変わり、専門の知識や経験が豊富な職員が育ちにくいのも泥土リサイクルの阻害要因とも言える。適正な技術を選択、評価できる人材育成が急務だ」
「環境関連のプロジェクトは、全関係者が納得しないと（7月1日就任）」



新理事長

1970年京都大学大学院工学研究科交通土木工学専攻修了、73年同大工学部土木工学教室助手。同大大学院教授、地球環境学堂長を経て2008年退職（京大名誉教授）。香川高等専門学校校長、防災研究協会理事長、日本工学アカデミー副会長などを歴任。現在は環境地盤工学研究所理事長。大阪府出身、79歳。